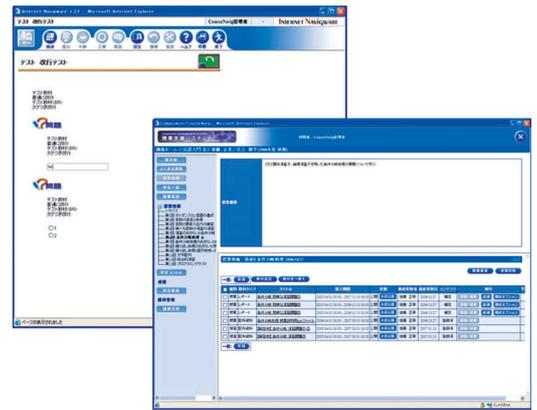


**4月 CourseNavig本格導入**

ITによる教育支援環境の充実にに向けた取り組みの一環として、環境情報学部では授業支援システムCourseNavigの本格導入と、正規授業における運用を開始しました。様々な取り組みとノウハウ蓄積の結果、後期からは一部の正規演習授業において活用し、一定の成果を得ることができました。CourseNavigは(1)授業概要参照機能、(2)教材配布機能、(3)コンテンツ学習機能、(4)授業内容確認・習熟度確認テスト機能、(5)レポート提出機能、(6)質問回答機能、(7)レポート採点機能、(8)学習履歴管理機能、(9)出欠管理機能といった一般的な授業支援システム(LMS)が持つ各種機能を装備しています。受講生は、Web上のCourseNavigから教材をダウンロードしたり、課題を提出したり、自らの出席状況や課題提出状況をチェックしながら学習を進めることが可能です。現在、次年度以降のさらに広範囲の授業での活用に向けた準備を進めています。



授業支援システム、CourseNavigの画面

**6月 2007年度教育用情報機器更新についての企業説明会の開催**

情報メディアセンターでは、2007年度の後期から教育用情報機器の一部を更新するに伴い、2006年6月13日に、情報機器の仕様、保守・運用条件の説明のための企業説明会を開催し、19社39名に出席いただきました。当日、諏訪敬祐情報メディアセンター所長の挨拶に始まり、概要・仕様の詳細説明、山田豊通情報システム委員長の説明があり、最後に、情報メディアセンターの施設見学をし、説明会を終了しました。より良いシステムを導入するための試みとして、次回以降も継続される予定です。

8 現行システムの説明と次期システムへの要求仕様

8.1 現行システム  
キャンパスネットワーク以下VLAN125構成とし、情報メディアセンター内にサーバ、研究室や教室、事務室など各キャンパスのネットワークサーバを接続している。下記ネットワークサーバは接続している。

主要なネットワークサービス

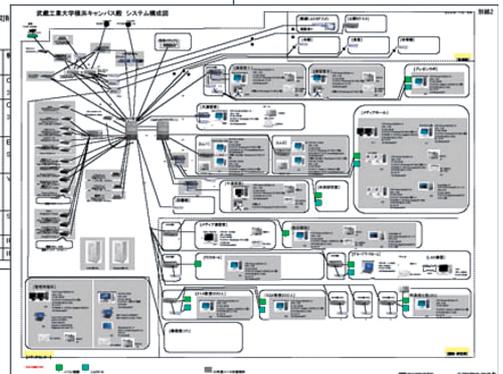
1. ファイアウォール
2. プロキシサーバ
3. DNSサーバ
4. VPN
5. ターミナルアップ
6. 無線LAN
7. 経営管理サーバ(ネットワーク ロードバランサーに接続制御されない)
8. SMS(モバイルサーバ)
9. 高帯域ネットワーク (キャンパス内からの通信を制御)
10. LAN 演習ネットワーク (グループワーク)

接続のネットワーク構成は別紙と同等

用途	設備	メーカー
サーバ接続	0094	Cisco
Proxy	0094	Cisco
キャンパス外通信	0094	富士通
VPN	0094	Cisco
F/W	0094	富士通
F/W	0094	NEKA
F/W	0094	NEKA

説明会で提示した「要求仕様書」は、32ページに亘り、時期システムの要求詳細について示したものである。

システム構成図



**7月 大学トップのWebサイト更新について**

2006年7月から、広報委員会・Web編集会議を中心に全学Webの基本コンセプト、デザインの策定等を行ってきましたが、9月15日にリニューアルを実施いたしました。当会議のメンバーのうち、環境情報学部からは宮坂榮一教授が編集長として、山田豊通教授と情報メディアセンターの森智彦主事、市川康事務課長が編集委員として参加しています。

今回のリニューアルサイトは、主として受験生が見ることを想定して、メインサイトと訪問者別ナビゲーションサイトより構成され、従来のものと比較し、刷新されたイメージが感じられるものとなりました。

今後、各ページの内容を更に充実させるための取材や写真の撮影などを行ないながら、内容の一層の充実を図ると共に、受験生向けの特集や研究室紹介ページの作成、教員データベースや資料請求処理機能などの構築を行ないつつ、当初の重要機能であったCMS(Content Management System)の導入も進めていきます。

大学トップページ



**8月** 高大連携事業による遠隔授業の実証実験（本学部・附属第二高校間）

学校法人五島育英会内学校間の初めての試みとして、本学環境情報学部と長野県塩尻市にある附属の第二高等学校との間で、2006年8月から12月まで計5回にわたり、遠隔授業の実証実験が行われました。第二高校からの申し出を受けて遠隔授業用機材一式を貸与し、本学部よりインターネットを経由して、第二高校を訪れたのべ400名の地元中学生および保護者に講師の先生方の映像、音声、資料が配信され、回線を通して時に活発な質疑応答が行われました。この実証実験により、第二高校との協力関係が強まり、地元の中学生に大学、高校の活動内容をPRできるとともに、高校側において機器や回線整備の重要性が強く認識されることとなりました。この試みを通して法人・第二高校、本学のメンバーによる第二高校との連携をより実質的かつ定期的なものとする委員会が発足し、具体的な企画・施策の実施が開始されました。



◀ 遠隔授業の様子（武蔵工大側）

第二高校とのやり取りの様子 ▶



◀ 遠隔授業の様子（第二高校側）

**10月** 学部開設10周年記念の主要事業実施

環境情報学部は1997年4月に、それまでの工学部だけの単科大学だった本学の第2番目の学部として新キャンパスである横浜キャンパスに設立されました。以来、環境と情報という重要なテーマについて時代の要請に応えるべく理系・文系の枠を超えた教育・研究の取り組みを続け、2006年度に開設10周年目を迎えました。2006年10月21日には、開設10周年記念事業の一環として、記念碑除幕式、中国・ネパール・米国と連携したパネルディスカッション、懇親パーティーが実施されました。記念碑は本学のOB会である武蔵工業会から寄贈されたもので、大学創立の趣旨の銘文が刻印され、情報メディアセンターの傍に建立されました。



「特色ある教育支援プログラム・国内外の地域と連携した環境教育のあり方」というテーマで開かれたパネルディスカッション



◀ 記念碑には、「公正、自由、自治」の3つのキーワードが光る。

10月

## 環境情報学部学生チーム 第3回MDDロボットチャレンジ・飛行船ロボットコンテスト飛行部門1位受賞

2006年10月19日に日本科学未来館にて開催された第3回MDDロボットチャレンジ・飛行船ロボットコンテストにおいて、環境情報学部の小倉信彦准教授の指導により、小倉研究室3年高橋和晃君・長谷川稔君、諏訪研究室3年佐藤裕樹君、奥平研究室3年片山亘君の参加する大学合同チーム（チーム名「ふわっと」）が飛行部門1位（全10チーム中）を獲得しました。

第3回MDDロボットチャレンジ・飛行船ロボットコンテストは、小型飛行船を自律制御するシステムをモデル駆動開発（Model-Driven Development）に従って開発し、その過程で得られるモデルや飛行内容を競う組込みシステム開発のロボットコンテストであり、ハードウェア、ソフトウェア、制御、計測を含めた様々な技術が必要となる組込みシステムの開発方法の研究や、システム開発を通じた実践的な技術教育、産学交流を目的とし、組み込みシステムシンポジウム2006（ESS2006）・ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2006（SES2006）（情報処理学会ソフトウェア工学研究会・情報処理学会組込みシステム研究会主催）の特別企画として開催されたものです。小倉研究室所属学生は、昨年度のETソフトウェアデザインロボットコンテストでの受賞実績があります。



◀ 開発・実験の様子



飛行競技で通過ポイントへ向かう飛行船

11月

## 環境情報学部開設10周年記念 「環境ゲーム作成コンテスト」盛況裏に終了

2006年11月18日、学部開設10周年を記念して、地球環境問題解決のため国民一人ひとりのライフスタイルの変革を促すゲームソフトやゲームのコンテンツを募集した「環境ゲームコンテスト」が開催され、第8回環境ISOフォーラムで表彰式が行われました。

環境大臣賞（ソフト部門）に武蔵工業大学 環境情報学部環境情報学科史中超研究室の李治力（リ チリョク）君と夏傑（シャ ジェ）君の作品が選ばれました。コンテンツ部門は、武蔵工業大学学長賞に環境情報学科3年の青木雄志君、池田智史君、柏木拓也君の作品、同じくコンテンツ部門で環境情報学部学部長賞に東京電機大学理工学部情報社会学科3年岩城理規君の作品が選ばれました。



◀ 審査員による最終審査の様子



▶ 環境ISOフォーラムでの表彰式の様子

11月

## 学生アシスタントから見た環境情報学部の情報リテラシー教育

開学10周年特集号となる今号では、学生アシスタント6名に集ってもらい、アシスタント座談会を開催しました。アシスタントになったきっかけや、アシスタントとして経験したこと、学んだこと、苦労したことなど様々なエピソードを交えて語り合いました。

開学初年より、本学部では、大学院生だけでなく学部生がアシスタントとして活躍しています。コンピュータを使った演習授業では、SA(Student Assistant)として、授業時間外では、メディアホールにて学生からの様々な質問に対応するISA(Information Study Assistant)として、横浜キャンパスにはなくてはならない存在です。詳細は本誌「学生アシスタントから見た環境情報学部の情報リテラシー教育」をご覧ください。



メディアセンター2階CIS談話室で行われた座談会

## 1月 映像メディアルームで英語ドラマ収録

2007年1月22日に情報メディアセンター映像メディアルームのスタジオにおいて、大学院環境情報学研究所博士前期課程1年湯広才君が環境教育の実験教材を収録しました。湯君は中国における環境教育の可能性について研究していますが、正課としての導入は難しいことから、英語教育の教材に環境問題（今回は食糧問題）を取り入れることを考えました。そこで、英語教員のサポートのもとネイティブスピーカーの出演を得てラジオ・ドラマ形式で教材作成をしました。映像メディアルームで英語のラジオ・ドラマが収録されたのは、本学部開設以来、初めてのことでないかと思われます。なお、収録に当たってのシステムの利用などについては、情報メディアセンターが全面支援しました。



撮影に用いられた機材



湯君と撮影に協力してくれた家族（上3枚）

## 1月 小池研究室 「テクニカルショウヨコハマ2007」に参加

2007年1月31日～2月2日の3日間、ヨコハマみなとみらいのパシフィコ横浜にて開催された「テクニカルショウヨコハマ2007」（主催：社団法人神奈川県産業貿易振興協会、社団法人横浜市工業会連合会、神奈川県、横浜市）に情報メディア学科の情報デザイン研究室（小池研究室）が出展、幼稚園用ロボットの動作コンテンツ、インフォメーショングラフィクス等の研究成果を発表しました。出展ブースでは、実際にロボットやバス路線図などを展示し、小池星多准教授や研究室の学生が、来訪者へ研究成果の説明を行いました。

3日間の開催で、本学ブースにも多くの来訪者があり、小池准教授や研究室の学生は研究成果の説明に終わりましたが2日には、特設セミナー会場にて小池准教授による「ユーザー中心の情報デザインの手法と事例について」という講演が行われました。



小池星多准教授と小池研究室の学生たち



来場者に説明をする小池准教授



特設セミナー会場にて行われた小池准教授の講演会